

第二回 県央地域懇談会 「新時代を開くものづくり技術の 継承発展と匠の技」 ～ 伝統があってこそ先端が開かれる ～

2月27日(火) オークラフロンティアホテル海老名にて第二回県央地域懇談会を開催。地域製造業経営層を中心に約120名が集まった。

【開会挨拶】海老名市内野市長より、地域の優れた技術を持った企業等と協働し、日本の背骨であるものづくりを真剣に捉えていきたいとあった。

【課題提起】

高橋会長：日本が激しい国際競争の中で、現場を中心に培われたパフォーマンスを維持し発展出来るか？匠の本質であるものづくりの想いを先端技術でどう繋ぎ、企業を発展させれば良いか？

ものづくり大学 神谷学部長：日本の製造業が置かれた厳しい状況をデータで説明。若者の理系離れや技能・技術の継承について課題提起した。

【パネルディスカッション】

(株)光学技研 岡田代表取締役社長：

自社は光通信用光学製品の設計・開発及び製造、固体レーザー結晶及びEO結晶の加工、その他結晶及びガラス基板の試作加工を行っている。機能結晶(光を通すと作用し、ある機能をする)を製造しており、その柔軟な加工精度に特徴があるため、日本技術の最先端の情報が入ってくる。

光学技研の研磨加工はオスカー式研磨をベースとしたピッチ研磨、単位はナノレベルで行われているが全て“勘”。マニュアルはないので、各技術者でやり方が違うが結果は同じに仕上がる。その為、社内では評価技術にかなりの費用を使っている。

技術の継承には危惧を感じており、会社として認定制度等も行っているが、匠の技をもつ、研磨をする人材を育てるのはOJT。しかし“教えず、確認のみ”。教えると失敗方法など一連の流れを頭で理解してしまう。遠回りでもコスト・時間がかかっても良いから失敗を積み重ねられるよう、徹底的に面倒くさいことをやらせる。技術職のチャレンジ精神を大切にしている。

(株)昭和真空 小俣代表取締役社長：

デジタル家電や携帯電話等に使われる電子部品に欠かせない技術が薄膜形成技術。金属を真空中で気化、プラズマ状態にし、基板の上に金属等の薄膜を形成させる技術は水晶振動子や薄膜磁気ヘッド、光学部品等の製造に不可欠。成長するニッチ市場に焦点を絞り、真空技術を駆使した電子部品・薄膜形成装置メーカーとして優位性を確保。次の3分野で薄膜部品製造装置を開発・製造。

シェア80%以上を占める水晶デバイス製造用装置 DVD等に使用される光ピックアップレンズやデジカメの光学部品等の形成に使われる光学部品装置 携帯電話向けや車載部品用等用途が拡大する電子部品装置を手がける

OJTで技術教育を大切にしてきたが、細部の落とし込みがうまくいかない。ISOに則って標準化を測るためレベル別にマニュアル化を促進中。技術の認証制度づくりを進めている。大企業が自らやっていた技術に関する新たな発注が増え、日本のものづくりの空洞化に強い危惧を感じる。

(株)正和製作所 鈴木代表取締役社長：

よくある町工場を脱却すべく、経営層にて自社の強みは何か？合宿から始まった。創業以来50年間培ってきた精密板金技術のナレッジに3次元CADを融合。大型かつ曲線美の新型新幹線車輛、前尾灯の板金の設計・加工までを手がける。自社の強みである多品種小ロットを基に短期で品質の良い製品を作ることに成功した。

零細企業では個人の技能が暗黙知化し、そのことが高い評価を得るといった文化が強かった。これからの社内文化を“技術は伝えていくもの”という意識改革を時間をかけて進めている。

技術を継承し事業を拡大していくと近隣住民と環境調和の必要性が出てくる。この点については是非、企業がのびのびと活動できるような条件整備等の行政支援を戴きたい。

県産業技術センター 唐澤副所長：

県産業技術センターと改称し、ものづくり技術支援強化3年3倍増活動を達成、現在は質的レベル倍増計画活動を実施。企業は暗黙知である加工ノウハウを中心とした、他には真似できないコア技術を明確することが大事。産学公連携の公共試作開発ラボ機能の場を提供したい。企業との連携事例を説明し、暗黙知に係る実用開発と人材育成が技術継承にとって大切である。R&D 構想を中心に神奈川独自の技術力を高めたい。



素晴らしい技術力に関心を寄せる参加者

【代表質問1】

高橋会長：自社で培ってきた強み・技能をビジネスに反映させる契機は何であったか？

神奈川大 曾我部教授：新しい発想を得るためミーティングカリキュラム等の工夫はあるか。

(回答)お客さまの高い技術的要望に真剣に取り組んだこと、常に前向きに勉強会等から学ぼうとしたことが契機になった。

【伝統工芸品紹介】

大山の独楽、箱根寄木細工の作成をビデオにて紹介。併せて東京女学館大学金子教授から、会場に展示し、参加者を魅了した明治時代の箱根寄木

細工等、15,000点のコレクションについて、県産業技術センター尾上工芸技術所長から、NCマシンなど、現代技術を取り入れた寄木細工等について説明があった。

【代表質問2】

曾我部教授：北九州市を例に「我が地域の技術はこれ」と子供教育を通じ地域に浸透出来ないか？

(回答)鈴木社長：海老名市は中学生の企業訪問をPTAの支援で実施しているが親の参加がない。子供の頃からものづくりに馴染む様な環境をつくるのが重要である。神谷学部長も若者のものづくり離れを止める良い提案と賛成した。

【閉会挨拶】

当協会理事 アツギ(株)岡安代表取締役会長

県央には素晴らしい企業があると大変心強く感じた。本日のテーマも含め、まだまだ産学公連携にて取組むことが出来るのではないかと。更に魅力ある地域づくりを形成し、神奈川・日本全体に広げられればと思う。

【交流パーティ】

海老名商工会議所 吉岡会頭より開会ご挨拶、最後は地域活性化委員会委員、ソニー厚木テクノロジーセンター 谷津代表にて締め括られた。



70名以上の参加があった交流パーティ